

第9回 文化庁映画週間

http://bunka-cho-filmweek.jp
2012.10.20 sat – 10.27 sat

マスコミ関係者各位

2012年10月14日

ご取材のお願い

平素よりお世話になっております。本年度のゲストがすべて確定し、例年になく様々な分野で活躍するバラエティ豊かな顔ぶれとなりました。東京国際映画祭（以下TIFF）と合わせて、ぜひご取材いただけますようお願い申し上げます。

映画ナビゲーターズ 10月24日(水)、10月27日(土) 19:30~@六本木ヒルズ TIFF movie cafe

TIFF期間中にオープンする TIFF movie cafe で開催する映画カルチャートークイベントです。様々な分野で活躍するゲストが、映画の新しい楽しみ方をナビゲートします！

10月24日(水) 19:30~20:30 (開場19:00)

「Laugh & Sports映画筋トレ」

ゲスト：村上 純 (しずる/お笑い芸人)

大畑 大介 (元ラグビー日本代表/神戸製鋼ラグビー部アンバサダー)

お笑い界、スポーツ界で活躍するゲストに、その道で闘い続ける不屈の精神を、お薦め映画を通じて語っていただきます。

10月27日(土) 19:30~20:30 (開場19:00)

「Twitterと映画で遊ぼう」

ゲスト：Twitter Japan株式会社 牧野 友衛 (ビジネスデベロップメント ディレクター) シャディア・ブッタ (オペレーションチーム)
ソーシャルメディアを通じて映画について語り合う楽しさや、映画を通じて人と人とがつながる面白さを語ります。



©YOSHIMOTO KOGYO CO.,LTD.

★ご取材希望の方は、19:00にプレス受付にお越しください。※ご来場の際は、必ずお名刺をお持ちください。

シンポジウム -MOVIE CAMPUS- 10月26日(金) 13:00~ @六本木アカデミーヒルズ49 タワーホール

様々な立場の映画人を迎え、映画文化の最新動向をアカデミックな視点で紹介します！

※同時通訳有

第一部 「クラウドファンディングは本当に映画を救うのか？」 13:00~15:00(開場12:30)

インターネットでスポンサーを募るクラウドファンディングは、従来の映画の資金調達方法を変え、現状の突破口となり得るのか？米国での成功例『ハーブ&ドロシー50x50』や今年のT I F F 出品作『ストラッター』の監督を迎え、事例を紹介しながら、日本の商業映画で成立する手段となり得るか、検証します。

●登壇者：佐々木 芽生 (『ハーブ&ドロシー』『ハーブ&ドロシー50x50』映画監督/プロデューサー)

小川 真司 (映画プロデューサー / 株式会社ブリッジヘッド代表取締役)

大高 健志 (MotionGallery主催) / 梅津 文 (GEM Partners株式会社代表取締役)

カート・ヴォス、アリソン・アンダース (東京国際映画祭上映作品『ストラッター』共同監督/脚本/製作)

●モデレーター：関口 裕子 (ジャーナリスト/株式会社アヴァンティ・プラス代表取締役)

※TIFF「WORLD CINEMA」部門出品作『ストラッター』は約25,000ドルの制作費すべてを米国最大手クラウドファンディング・プラットフォームKickstarterを通じて調達。高額支援の特典として、Q.タランティーノ、E.コーエン、デュラン・デュラン、ソニック・ユース、エドガー・ライト、ダイナソーJr.等が厳選したFun Bagが用意されました。映画界・音楽界の交友関係を巧く生かした仕組みや経緯を語っていただきます。

第二部 「ショートアニメーションの密かな愉しみ~絵本との蜜月~」 16:00~18:00(開場15:45)

子供から大人まで楽しめるアニメーションと絵本の世界。絵本から生まれたアニメーション作品やアニメーション作家が描く絵本の世界 について、貴重な作品の上映を交え、その魅力と知られざる結びつきを再発見します。また、海外と日本の現状の比較や人材育成など、アニメーションの未来について考えます。

●登壇者：山村浩二 (アニメーション作家)、ミムラ (女優)

●モデレーター：田中 文 (東京国際映画祭スタッフ)

※雑誌の連載や著書にて、絵本の魅力を独自の目線で伝えている女優のミムラ氏を迎え、

絵本とアニメーションとの密接な関係にスポットを当て、アニメーションの未来を語ります。



©STARDUST PROMOTION, INC.

★ご取材希望の方は、それぞれ開場時間にプレス受付にお越しください。

※ご来場の際は、必ずお名刺をお持ちください。

平成24年度 文化庁映画賞受賞記念上映会 10月27日(土) 11:00～ シネマート六本木

本年度の文化記録映画部門受賞作品について、下記のとおり受賞記念上映会を実施します。受賞作品を上映するとともに、受賞者をゲストに迎え、作品が作り出された背景や製作秘話などを紹介しながら、映画のもっている可能性について語り合います。

■文化記録映画大賞

※開場時間にプレス受付にお越しください

17:00～『隣る人』(開場16:40)

製作者: アジアプレス・インターナショナル/監督: 刀川和也

誰もひとりでは生きられない

親と暮らせない子どもたちと、隣り合う保育士たち。そして、子どもと再び暮らすことを願う親。8年間にわたる撮影の中で、ある児童養護施設の日常から「人と人の関わり」を丹念に紡ぎだしたドキュメンタリー。



©Group Gendai Films Co.,Ltd.

■文化記録映画優秀賞

11:00～『医(いや)す者として～映像と証言で綴る農村医療の戦後史～』(開場10:40)

製作者: 株式会社グループ現代/監督: 鈴木正義

農民とともに 一若月俊一と佐久病院の60年

長野県佐久市(旧南佐久郡)佐久総合病院。医師・若月俊一が貫いた医療と福祉を超えた活動と志は、今も多くの人々をひきつけている。はたして若月が築いてきた農村・地域医療の精神は引き継がれていくのだろうか?



©2011 Masako Sakata/Siglo

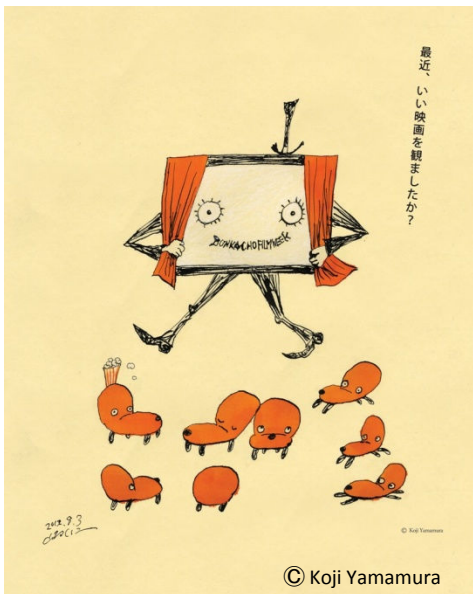
14:10～『沈黙の春を生きて』(開場13:50)

製作者: 坂田雅子、株式会社シグロ/監督: 坂田雅子

ベトナム、アメリカ——いまだ癒えぬ枯葉剤の被害の傷痕

ベトナム戦争で散布された枯葉剤の被害は50年を経過し、アメリカにも広がっていた。片足と指が欠損して生まれた帰還兵の娘ヘザーは、ベトナムを訪ね、両国の被害者が連帯し、困難に向き合うことの大切さに気づく。

文化庁映画週間について



魅力ある総合芸術であり、海外へ日本文化発信の有効な媒体である日本映画の振興に、文化庁は様々な観点から取り組んでいます。その一環として、映画をあらゆる角度から取り上げる文化庁映画週間を、第25回東京国際映画祭の期間中に開催します。

今回で9回目となる文化庁映画週間は以下4つのプログラムで構成されます。

優れた文化記録映画と長年にわたり日本映画を支えてこられた方々を顕彰する

文化庁映画賞贈呈式

受賞作品による **受賞記念上映会**

映画界の今を考える **シンポジウム-MOVIE CAMPUS-**

文化人をナビゲーターに迎えて映画の楽しさ・楽しみ方を紹介する

映画ナビゲーターズ

第9回文化庁映画週間

■会場: 10月20日(土)～27日(土)

■会場: 六本木ヒルズ+シネマート六本木

■公式サイト: <http://bunka-cho-filmweek.jp>

※全プログラム入場無料、公式サイトで事前申込受付中

本年度の文化庁映画週間のネットワークを、国際的に活躍するアニメーション作家・山村浩二氏に手掛けていただきました。

1964年生まれ。東京造形大学卒業。2002年『頭山』がアヌシー、ザグレブをはじめ世界の主要なアニメーション映画祭で6つのグランプリを受賞、第75回アカデミー賞にノミネートされる。また『カフカ 田舎医者』がオタワ、シュトゥットガルトなど7つのグランプリを受賞。これまで国内外の受賞は80を越える。2011年カナダ国立映画制作庁との共同制作で『マイブリッジの糸』が完成。アジアアニメーション映画祭にて優秀アーティスト賞受賞(2006)、アルビーン・ブルノフスキー名誉メダル(2008)、第30回川喜多賞(2012)受賞。日本アニメーション協会副会長、ASIFA 日本支部理事、ヤマムラアニメーション有限公司代表取締役、東京造形大学客員教授、東京藝術大学大学院映像研究科教授。

このリリースに関するお問い合わせ: 公益財団法人ユニジャパン
文化庁映画週間事務局(井出、徳武) TEL:03-3553-4781 bfw2012@unijapan.org